



結



2026.7.25 No.130

発行：憲法9条の会つくば

〒305-0004

つくば市柴崎68-103

Tel/Fax 029-858-2034

..... 憲法9条の会つくば 21周年のつどい 10月10日(土) 午後(つくば市、アルス・ホール)

「日米軍事一体化の真実」

講師：布施祐仁さん(ジャーナリスト、専門は外交・安全保障)

標記タイトルは、布施さんの著書『従属の代償』(2024年9月/講談社現代新書)の副題です。本書の「はじめに」の冒頭、布施さんは次のように書き出しています。

「戦後最も厳しく複雑な安全保障環境」——近年、日本政府が安全保障について語る時に、枕詞のように使うフレーズです。確かに、台湾海峡の緊張激化や、北朝鮮の核・ミサイル開発、中国とロシアの関係強化など、日本を取り巻く安全保障環境は、第二次世界大戦後、最も厳しいものになっていると言ってもいいでしょう。

そんな中、「近い将来、日本が戦争に巻き込まれてしまうのではないかと不安を抱く方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

——憲法9条の会つくばの今年の周年記念のつどいでは、上記の問いかけに答えるテーマで、布施祐仁さんに講演をお願いしています。

『従属の代償』は、6つの章から成ります。各章の見出しと、節の小見出しの抜粋を紹介します。

1. 南西の壁

石垣島に陸自ミサイル基地/「台湾有事シフト」/南西諸島が「戦場」になる

2. 中距離ミサイルがもたらす危機

敵基地攻撃能力の保有と「見捨てられる恐怖」

3. 米軍指揮下に組み込まれる自衛隊

同盟史上「最も重要なアップグレード」

4. 日本に核が配備される可能性

「核共有」を検討すべきと主張する人々

5. 日米同盟と核の歴史

日本への核兵器配備構想と「事前協議の嘘」

6. 米中避戦の道

日本は専守防衛を貫き、ASEANと連携して仲介外交を

*

*

*

この本の出版から1年余り後、2025年10月に自維連立の高市政権が発足し、今年2月の“自己都合”・“抜き打ち”解散で議席を増やすと、日本の軍事化が加速し、“米国とともに戦争する国”へ、なりふり構わぬ政権運営が続いています。

武器輸出の解禁、情報管理の強化、国民監視・政府批判抑圧の悪法、憲法改悪に向けての動き…が、急ピッチで進んでいます。

トランプ大統領の世界戦略は、同盟国への軍事的要求を強め、高市政権は、それに“従属”しようとしています。

憲法9条は、政権にとって“足枷”でしかありません。改憲への最短スケジュールとして、来年1~3月頃に国会発議、4~10月頃に国民投票という可能性も探っています。

「政府の行為によって再び戦争の惨禍が起こることのないやうに決意し」た日本国憲法(前文)の理念を貫くために、今、私たちは正念場に立っています。

*21周年のつどいのチラシは、「結」9月号に同封します。ぜひ、多くの方を誘ってご参加ください。

*「憲法9条改悪に反対する請願署名」(「結」5月号に同封)は、欄がすべて埋まらなくても大丈夫です。

当会までお届けください。



若者を戦場に送る手助けをしないで！

右は、「広報つくば」2026.3.1付に掲載された小さな記事です。

自衛隊が自治体に18歳と22歳の住民の「個人情報」の提出を求める事については、自衛官募集の手段として、批判の対象になっています。記事に書かれた情報提供の根拠とする法律や施行令は、個人情報保護法により、法的根拠にならないとの指摘もあります（「結」No.127＝2026、1月号、P.3 参照）。

「自衛隊への情報提供を希望しない方へ」は、市の広報やHPだけでは周知されず、こうした手続きがあることを知らない人が大半ですし、知っていても手続きをする人は極めて少数で、自衛隊の募集事務にほとんど影響はありません。いわば、「拒否できることは知らせましたよ」という“アリバイ工作”であり、手続きをしなかった人は全員、情報提供を承認したと見なす“免罪符”になります。

しかし、情報提供をするか否かは、自治体の任意の判断によります。2024年度には、全国の自治体の3分の1は、自衛隊への名簿提出に応じていません。

市の総務課に、5月14日、憲法9条の会・平和委員会・軍拡No！女たちの会の4人が伺い、申し入れを行いました。

▶自衛隊の個人情報提供要請に自治体は必ず応じる義務はないのだから、つくば市として、名簿提出をしないでほしい。

▶「個人情報提供除外申請」をしなかった人が同意したと見なすのは、おかしいのではないかな。

▶何よりも、集団的自衛権行使の容認によって、海外での戦争に派遣される可能性のある自衛隊に、つくば市が若い市民を送り出す手助けをしないでほしい。

▶自衛隊法には「事に臨んでは危険を顧みず、身をもって責務の完遂に努め」と記されていて、一般の国家公務員にはない「賭命義務」が課されることは、勧誘時には明確にされていない。

▶慣例で情報提供に応じてきたのなら、市として新たな検討をお願いしたい。

総務課の職員の方は、資料も詳しく読んで、真摯に対応してくださり、市長に伝えるとのことでした。

その後、5月22日付で、五十嵐市長宛てに、9条の会・事務局長名でメールによる申し入れを行い、さらに6月19日の大穂でのタウンミーティングにも事務局から1名が参加して、市長に質問・意見を述べました。

五十嵐立青市長は、次のように答弁されました。

- ・情報提供は、“慣例”でやっているのではなく、“法令”に基づくものである。
- ・「住民基本情報」は、コピーを取って自衛隊に提供しているのではなく、名簿の“閲覧”に供する方法で提供しているだけである。
- ・お気持ちはわかるが、あくまで法律に則った業務である。

前記のような“法律”の適用についての検討には、言及はありませんでした。

また、“名簿提出”ではなく“閲覧”に供しているだけだというのも、自衛隊が閲覧した情報を「自衛官および自衛官候補生の募集事務に利用」という実態は、変わらないのではないのでしょうか。

◀茨城県平和委員会のパンフレットより



広報つくば 2026年(令和8年)3月1日

自衛隊への情報提供を希望しない方へ

市では、自衛隊法施行令第120条に基づく防衛大臣からの請求に応じて、住民基本台帳法第11条に基づき、自衛官募集事務のために必要な住民基本情報を閲覧に供する方法で提供しています。提供した情報は、自衛官および自衛官候補生の募集事務に利用されますが、自衛隊への自己の個人情報の提供を望まない方については、本人・親権者などが除外申し出の手続きを行うことにより、自衛隊が閲覧する情報から除外します。

提供する情報＝氏名、住所、生年月日、性別

① 2004年4月2日から2005年4月1日生まれの方

② 2008年4月2日から2009年4月1日生まれの方

※いずれも日本国籍を有する住民に限る

③ 5月29日(金)までに除外申出書(市ホームページに用意)を郵送(必着)または直接総務課

茨城県平和委員会 先島諸島ツアー 6/22 (月) ~28 (日) (与那国島・石垣島・宮古島) 「国民保護」(避難? 追い出し?)と表裏の「戦争準備」の最前線

沖縄本島から与那国島までは約500km。さらに111km先には台湾が。政府は、「台湾有事」を想定し、島民を分断しながら、与那国島(2016年)、石垣島(2023年)、宮古島(2019年)に自衛隊の駐屯地をつくりました。先島諸島は、「戦争する国」づくりの実態がつぶさに見えるところです。(ツアーしおりの冒頭メッセージより)

茨城県各地と近隣都県から20名(68~87歳)が参加し、密度の濃い研修を行いました。

台風7号の通過により、予定より3泊多い宮古島での滞留となりました。



【1】6月22日(月): 茨城空港→那覇

那覇では、大久保康裕さん(沖縄県平和委員会・事務局長)を講師に招いて、事前学習を行いました。

◆沖縄の現状

①「慰霊の日」を巡る問題

- ・沖縄戦を指揮した牛島満・司令官と長勇・参謀長が自決したとされるこの日は、「慰霊の日」とされて、「沖縄戦の実相に触れ、非戦の誓いを新たにする」日である一方、史実の誤り・歪曲・改ざんもされてきた。「最後まで敢闘し、悠久の大義に生くべし」と言った司令官の自決後も戦闘は続いたし、住民虐殺も行われた。沖縄戦の降伏調印は、9月7日である。
- ・「非戦の日」を「軍人顕彰・美化」の日に、極右勢力が利用してきた。この日に自衛隊の参拝も行われている。(批判を受けて、しばらく止まっているが、いつ再開されるか…。)

②辺野古の転覆事故と、今後の運動

- ・市民団体に起こりがちな“脇の甘さ”があった。あと先を考えない勢いまかせの行動、“勘違いの美学”、曖昧にしがちな責任の所在、法令に関する警戒心の希薄さ、など。
- ・何よりも、「政権の邪魔者を駆逐する道具」を与えたこと。辺野古新基地反対等「建白書」実現への攻撃。沖縄平和学習(歴史教育を含む)への攻撃、見せしめ。「左翼」の烙印、踏み絵で分断。
- ・御用ジャーナリズムやネットウヨによるデマと詭弁の拡散。
- ・玉城県政と「オール沖縄」の孤立を狙って、事故の犠牲を悪用しているのが権力。
- ・資料の中の、6/17付・沖縄タイムス5面、「中立の名の下 沖縄いじめ」(沢村郁さん)より
——なぜそこまで子どもたちに辺野古の現実を見せたくない、反対の声を聞かせたくないのか。それは、あの場所に行くと、政府が沖縄の人たちから平和と民主主義を奪い、踏みにじっている、そのひどさが分かってしまうからではないか。沖縄の声を「偏向」呼ばわりして、現実を知られないように仕組みをつくる。このようないじめに等しい目に遭っている県が、沖縄の他にあるだろうか。

県民の「普天間飛行場は全面撤去しろ」「新しく米軍基地を押し付けるな」という声や思いに、特定の政治思想や「右」も「左」もない。しかし、政府が「偏っている」とレッテルを貼れば、「なんか怖い、沖縄、辺野古に関わりたくないでおう」という世論や空気を醸成してしまう。結果、沖縄の不条理は国民の耳目に届かなくなる。



学習会後の記念撮影

③「オール沖縄」と県知事選

- ・「オール沖縄」とは、2012年9月9日に沖縄県民大会が開催され、その決議(オスプレ配備の撤回、米軍普天間基地の閉鎖・撤去、県内移設の断念)による「建白書」を、翌13年1月28日に安倍総理に手交した勢力のこと。
- ・そのたたかいは、オスプレイの配備、仲井眞知事の埋め立て承認など、いばらの道が続くが、14年11月に翁長雄志さんが県知事に当選

- し、玉城デニー知事に受け継がれている。（次回の県知事選は、今年9月13日の予定。）
- ・辺野古新基地の建設は、血税を捨て続けるだけで、物理的・財政的に不可能である。
 - 〈質疑応答より〉
 - ・「自衛隊」は、“違憲”、“対米従属”、“侵略”、そして“歴史改ざん”の「軍隊」である。
 - ・だから、自衛隊は自らのアイデンティティを持つために、「旧帝国軍隊」に依拠するしかない。

【2】6月23日（火） 沖縄慰霊の日：与那国島

この日は、早朝に那覇空港からプロペラ機で与那国島に移動し、現地出身の宮良（みやら）純一郎さんの案内で、バスで島内を巡りました。

島には学校は中学までしかなく、子どもたちは高校から島を出て進学・就職するそうです。現在、島民人口は（自衛隊員を除いて）1200人くらいに減っていて、数年後には、自衛隊・家族が人口の3割を超えると予想されています。

日本最西端の小さな島に、2010年頃から陸上自衛隊の駐屯地建設が水面下で準備が進められ、2014年の住民投票条例も議会で失効とされ、2016年に駐屯地が開設されました。

野生の馬が暮らす南牧場のすぐ近くに駐屯地が広がり（馬たちは、ストレスからか電磁波の影響か、健康を損ねている）、1.7haからどんどん拡張中で、軍事装備もより攻撃的なものとなっています。ウソをついて次々に既成事実をつくって拡大していくのが、常套のやり方です。

南岸の潟原（カタブル）浜の美しい海岸は、接収されて破壊され、北に1.2km離れたミサイル配備予定地まで、湿原を掘ってつなげる予定です。そのさらに奥に、陸自の駐屯地があります。



潟原浜の美しい海岸



陸上自衛隊 与那国駐屯地

私たちは、「撮影禁止」と表示された駐屯地の長いフェンス際を歩いて、隊員が見張りに立つ正門前まで行きました。



駐屯地のフェンスの前で

その後、日本最西端の高台で海を眺望してから、市街地にある宮良さんのご自宅に伺って、町の議員と議長さんのお二人の話を聴いて学習しました。

◆与那国の軍事要塞化

①小嶺博泉・町議のお話

農家の息子だった小嶺さんは、中卒で島を出て、戻ってきてから、合併問題での住民投票、交易の推進など住民自治を活性化してきましたが、当時の町長が急逝し、新町政で駐屯地誘致が始まると、31歳の町議として、ただ一人、反対の論陣を張りました。

- ・「台湾有事」という言葉は、2021年に出てきたが、そのずっと前、「尖閣問題」で危機が言われた頃から、島への自衛隊配備は、裏で国が働きかけていたが、「危険なエリアである島が、自衛隊を誘致した」という形で進められた。
- ・国は、“島民の分断”を画策していった。小嶺さんにも国から“刺客”が差し向けられ、「日本国民のために役割を果たせ」と迫った。しかし、島は「負担」は負わされても、（ガソリンが高いなど）「支援」はされていない。
- ・与那国は、沖縄県内で一人当たりの所得は第2位の自治体だが、人口の中の割合が増えている自衛隊員に依るところが大きく、土地に根ざした一次産業（米作、サトウキビ、畜産など）従事者の所得は少ない。それだけ“所得格差”が

大きく、土地への“誇り”も奪われている。

- ・「有事」の避難指示は、「国民保護法」に基づいて発令されることになるが、中国が台湾を攻撃する場合、まず“防衛”する与那国が標的となる。避難命令が出されるのは、その後。どうやって逃げるのか。
- ・シェルターも、老朽化した町庁舎の建て替えに伴って、その地下に作られる（本土の大手ゼネコンによる高価なもの）が、それは200人しか収容できない。
- ・「国民保護法」は、避難してもリュック1個分しか保険対象にならず、残される家屋も農地も牛も、補償はされない。「戦争被害受忍論」が、今も続いている !!（恩給が支給されるのは、軍人だけ）
- ・「日米安保」は、米国が「守ってやる」から「農産物や鉱物を買え」という“セット”になっている。

② 崎元俊男・与那国町議長のお話

家業は、泡盛の酒造業。町が勝手に自衛隊誘致に進でいく（「銃を持つ警官が2人、という島では、自分たちを守れない」と）のに疑問を持って、町議になったと言います。5年前から、町議会の議長に就いています。

- ・2015年に、やっと住民投票にこぎつけたが、その1年前に基地の造成工事（既成事実）が始まってしまい、わずかな差で負けてしまった。保守系の攻勢が激しかった。
- ・2021年に騒がれた「台湾有事」は、与那国ではピンときていなかった。しかし、2022年に米国のペロシ下院議長が訪台したのを受けて、中国がミサイルを発射して与那国や波照間の近くに着弾させた。さらに、ウクライナ戦争も始まって、一気に「防衛」の意識が高まった。
- ・当時160人だった自衛隊員（家族を入れて250人）が、その後どんどん増えて、300人、さらに500人になり、島民人口の2割→3割を占めるようになった。
- ・「国民保護法」は、最初、船で4～5日かけて避難という計画だったが、その後、飛行機8機で12時間で佐賀空港へ、となった（国が勝手に立てた計画で、町は状況がわからないまま）。しかし、先島だけでなく沖縄本島も危ないとなったら、本島の120万人は、どうするのか。
- ・「有事」の避難計画は、まったく行き当たりばったりである。
- ・「基地」という負担を押しつけながら、それによって撤退した医療法人（歯医者も、島にいない）を、なぜ補償しないのか。ライフラインが脆弱になって生活水準も下がっている島を、狙い撃ちにしている。島の人口の過半が、自衛隊になってしまう。
- ・「基地」と「原発」は似ている。弱っている地域が狙われ、住民投票を起こせば、住民同士が対立・分断させられる。すべて、巨大企業の利益のために、政策が動いている。

その後、戦死を「軍神」として沖縄戦の県民総動員に利用された大舩松市・陸軍大尉と、妹で「ひめゆり学徒」として南風原（はえばる）陸軍病院への猛爆によって16歳で亡くなった清子さんが眠る「大舩家の墓」を訪ねました。

与那国空港に戻り、プロペラ機で30分ほど東の石垣島に移動しました。

【3】6月24日（水）：石垣島→宮古島



石垣島 戦争マラリア犠牲者 慰霊碑

この日は、大型バスで石垣島を巡り、石垣9条の会の藤井幸子さんにガイドをしていただきました。

朝、ホテル近くの新栄公園で「石垣9条の碑」を見学、その後、バナナ公園の「マラリア慰霊の碑」を訪れました。

◆戦争での被害は、補償されない

戦争中、石垣島には米軍などの上陸作戦こそなかったものの、日本の陸軍・海軍の3つの飛行場や海軍特攻艇出撃基地があり、空襲などによる直接戦争死者は178人だった。

それより多くの住民が命を奪われたのは、軍命によりマラリア有病地への強制疎開をさせられた「戦争マラリア死」だった。石垣島で2946人、八重山全体では3647人とされる。沖縄戦の「軍隊は住民を守らない」という

教訓は、石垣島でも生きている。

戦中・戦後、国が押しつけたマラリア禍は、個々の犠牲者には補償がされず、慰霊碑を作ることにとどまった。この碑に参るための石門は、深く頭を下げなければくぐれないよう、低く作られている。

◆日米一体の軍事要塞化（以下、藤井さんの資料より、抜粋・引用）

2015年9月17日の「安保法制」強行、2022年12月の「安保3文書」改定以降の「戦争する国づくり」は、南西地域での「軍備拡大」を進めている。

与那国・宮古に続いて、2023年3月16日、戦後78年間基地のなかった石垣島に、陸自石垣駐屯地が開設された。警備部隊・地対艦ミサイル部隊・中距離地対空ミサイル部隊など計570人、施設面積は開設時で47ha。市街地に、自衛隊宿舎が3か所150戸あり、現在4か所目が建てられている。

日本の軍事予算は、2026年度は過去最高の9兆円だが、沖縄・石垣関係は、石垣に約8億円、与那国に約14億円である。

石垣の自衛隊は、機能面でも強化が進められ、与那国・宮古に続いて26年にはミサイル部隊とセットの電子戦部隊が配備の予定。敵基地攻撃能力を持つ長射程ミサイルの配備も狙われている。

2025年3月24日に、陸海空の自衛隊を一元的に指揮する「統合作戦司令部」が発足し、3月30日には日米防衛相会談が行われ、ヘグセス長官は、日本が中国の武力行使を抑止するうえで不可欠のパートナーと明言。中谷防衛相（当時）も、「同盟の最優先事項の一つ」として取り組むと表明し、日米の司令部機能強化に向けて「指揮・統制枠組み向上」を確認した。

◆市民生活に入り込む自衛隊・米軍

78年間基地のなかった島の住民に自衛隊への抵抗をなくすための宣伝が、あらわになっている。開設後、市民的行事であるトライアスロン、マラソン大会に“安全対策要員”（公務、戦闘服）を派遣し、ハーリー祭（競漕行事）へは“訓練”として参加、そして産業まつりへのブース開設…。

2024年12月1日には、市主催の防災訓練に米軍が参加。陸海空自衛隊が参加する離島統合防災訓練は、日米共同統合防災訓練と同時実施された。

◆「戦争準備」と表裏一体で進む「住民避難計画」

いま、市民の中にある大きな不安は、戦争準備と表裏一体で進む「国民保護計画」に基づく住民避難である。

2025年3月27日、政府は、石垣・宮古・与那国などの先島諸島住民の「避難・受け入れ計画」を発表したが、避難先の大分・福岡・山口にも基地や弾薬庫があり、有事になれば攻撃対象である。さらに避難するのか。

「国民保護」は、日本政府が認定しなければ動き出さない。しかし、政府が「武力攻撃予測事態」を認定すれば、自衛隊に「防衛出動待機命令」が出される。つまり、戦闘準備が始まる（日本政府として「我々はこれから戦いますよ」という意思表示にもなる）。そうすると、中国は自衛隊の介入を止めるために、先制的に攻撃してくるかもしれない。避難のために空港や港に住民が集まっている所にミサイルが飛んでくる可能性もある。

「国民保護」とか「避難計画」というのは、“絵に描いた餅”、非現実的な計画でしかない。

避難による被害への補償の制度も、何も決まっていない。軍備強化については、いつも“最悪の事態を想定して”と言っているのに、国民への補償については、“被害を想定するのは困難なので、戦争終了後に検討する”。残された土地・財産…は、どうするのか。80年前と同じ「戦争被害受任論」で、棄民するのだろうか。

ミサイル基地ができるまでは「抑止力になる」と説明し、配備ができれば「対処力強化＝戦争準備」となり、避難計画は“住民は邪魔だから出ていけ”と言うのと等しい。

軍事力で平和は築けない、住民の命や暮らしは守れない。
ミサイルより外交を。

◆戦争準備を止めるために

政府は、台湾有事、対中国を念頭に、2023年から5年間で43兆円もの大軍拡を進め、高市政権はそれも前倒しし、世界第3位の軍事大国にしようとしている。（中略）

25年11月7日の国会答弁で、「台湾有事は存立危機事態になり得る」との高市発言が飛び出した。石垣市長は、11月18日の記者会見で、「仮に台湾有事が起こって海上封鎖になると、石垣市・与那国町も影響を受ける。存立危機事態の要素はある」と指摘し、首相答弁は「理解できる」と話している。

「存立危機事態」とは、何なのだろう。政府が「存立危機事態」と判断すれば、日本は攻撃も受けていないのに、海外での自衛隊の武力行使が可能になる。攻撃すれば、当然反撃



石垣市 核廃絶平和都市宣言

2025/4/18 撮影 赤字は工事中

4/18

木工所
倉庫
車両整備場
車両整備場B
解体倉A
解体倉B
解体倉C
解体倉D
解体倉E
解体倉F
解体倉G
解体倉H
解体倉I
解体倉J
解体倉K
解体倉L
解体倉M
解体倉N
解体倉O
解体倉P
解体倉Q
解体倉R
解体倉S
解体倉T
解体倉U
解体倉V
解体倉W
解体倉X
解体倉Y
解体倉Z
解体倉AA
解体倉BB
解体倉CC
解体倉DD
解体倉EE
解体倉FF
解体倉GG
解体倉HH
解体倉II
解体倉JJ
解体倉KK
解体倉LL
解体倉MM
解体倉NN
解体倉OO
解体倉PP
解体倉QQ
解体倉RR
解体倉SS
解体倉TT
解体倉UU
解体倉VV
解体倉WW
解体倉XX
解体倉YY
解体倉ZZ
解体倉AAA
解体倉BBB
解体倉CCC
解体倉DDD
解体倉EEE
解体倉FFF
解体倉GGG
解体倉HHH
解体倉III
解体倉JJJ
解体倉KKK
解体倉LLL
解体倉MMM
解体倉NNN
解体倉OOO
解体倉PPP
解体倉QQQ
解体倉RRR
解体倉SSS
解体倉TTT
解体倉UUU
解体倉VVV
解体倉WWW
解体倉XXX
解体倉YYY
解体倉ZZZ
解体倉AAA
解体倉BBB
解体倉CCC
解体倉DDD
解体倉EEE
解体倉FFF
解体倉GGG
解体倉HHH
解体倉III
解体倉JJJ
解体倉KKK
解体倉LLL
解体倉MMM
解体倉NNN
解体倉OOO
解体倉PPP
解体倉QQQ
解体倉RRR
解体倉SSS
解体倉TTT
解体倉UUU
解体倉VVV
解体倉WWW
解体倉XXX
解体倉YYY
解体倉ZZZ

訓練場
調整
開南集館
正面ゲート
警衛所
噴所

© 中越ドローシブプロジェクト

台湾問題は、日中共同声明で、中華人民共和国政府が台湾を中国の不可分の一部とする立場を表明しており、日本政府はこの立場を理解し、尊重することを約束している。日本は台湾を独立国として扱わず、台湾の主権問題については当事者ではないという立場である。（中略）

同じアジアで、ASEAN（東南アジア諸国連合）の国々は、紛争を平和的な話し合いで解決する枠組みを作り上げている。さらに、ASEANの11か国に日本・中国・韓国・オーストラリア・ニュージーランド・インド・米国・ロシアを加えた19か国が参加する東アジア・サミットで、創立から20年の節目を迎えた25年10月27日、ASEAN議長国であるマレーシアの首相は、冒頭あいさつで「多国間主義と国際法に基づく平和の維持が求められる」と述べ、地域や国際社会の課題に「強制よりも対話、対立よりも協力で行き届こう」と呼びかけました。

バスで進んだ大里農道では、のどかな牧場だった広大な土地も、新たな駐屯地用地として買い取られ、ロープが張られています。建設が進む弾薬庫も車窓から見えました。排水には、泡消火器の P F A S（有機フッ素化合物）が含まれるか可能性があります。

駐屯地の視察の後は、川平（カビラ）公園に向かい、カビラ湾の白砂の海岸からグラス・ボートに乗船し、美しい海中の様子を観察しました。珊瑚、イソギンチャクに、大小の魚、ウミガメやウミヘビも見えました。

午後には、石垣空港から宮古空港に向かいましたが、飛行機の遅れで、この日の宮古島での見学は、17時からになりました。

宮古島は、隆起サンゴ礁でできた平らな島。野原（ノバル）に旧陸軍の司令部がありましたが、今は航空自衛隊の分屯地（レーダー基地）になっています。

途中、100世帯近い自衛隊家族用アパートが立ち並んでいます。台風が近づいていましたが、ここだけは停電することがないそうです。

道路を隔てた正門正面には、「宮古島住民連絡会」のノボリや横断幕が立てられています。

広大な基地の周りをバスで巡って、上里さんのお話を聞きました。住民には「作らない」と言っていた「弾薬庫」も

あります。「もし火災が発生したら、消火せずに、すぐ600m逃げろ」という最危険な弾薬も。
フェンスのすぐ外に、自衛隊の予算で作った集落センターもあります。

上里さんは、この基地の比嘉隼人・司令（宮古警備隊長）に“恫喝”を受けたご本人です。2025年8月6日の明け方、伊良部島の海の駅前に、駐屯地の新人隊員らが行軍演習として公道を歩いて来ました。これを監視していた上里さんら2人が、「みなさん、おはようございます。素晴らしい御来光ですね。そういう戦闘服・迷彩服姿の向こうに綺麗な朝日を見るのは残念です」と若い隊員たちに呼びかけたところ、比嘉司令が大声で「こらあつ」と恫喝し、「許可を取れ」と怒鳴り続けました。後に、中谷防衛相（当時）が会見で「過度な抗議活動」と批判したことも、問題になりました。

- ・市民の抗議に「行き過ぎ」とレッテルを貼る圧力が強まっているが、住民は「追い出される」かもしれないという状況に、黙っていることはできない。
- ・宮古市長は、「9条では平和は守れない」「日米安保の力が必要」と公言している。
- ・米軍（海兵隊）と自衛隊は、一体となって訓練している。宮古島を「離島奪還訓練」の場として、「戦場」に見立てている。

【4】6月25日（木）：宮古島

最終日の予定でしたが、台風7号の接近通過で、この日、宮古島発着の飛行機は全便欠航。学校や官庁も、すべて休みとなりました。

ホテル待機でしたが、有志は車を手配して、前日夕方に訪問予定だった「アリラン碑」、「保良（ホラ）訓練場」（射撃訓練所、弾薬庫）前などを見学しました。

【5】6月26日（金）：宮古島

まだ飛行機は出ず。それでも、14時半から予定されていたオスプレイの宮古空港への飛来に抗議する集会に参加するために、空港裏手のフェンス前に行きました。けれど、この日のオスプレイ飛来は、中止に。

「住民連絡会」の清水早子さん（2018年5月の水戸での憲法フェスに招き、「宮古島で進む戦争準備」について報告してくださった方）の説明によると、中止理由を市は「分からない」と言っています。防衛局に問い合わせることもしていません。台風の影響かと思われますが、“よく墜ちるオスプレイ”は、悪天候では飛べないのでしょうか。

この後、宮古島総合博物館に行き、平和企画展示「戦争とくらし」を見学しました。

- ・宮古島は、全体が平坦であるため、戦時中は、海軍飛行場・陸軍中飛行場・陸軍西飛行場の三つの航空基地が建設された。
- ・米軍の上陸の可能性が高いと考えられていた宮古島には、次々と日本の部隊が送り込まれた。最終的には、陸軍約2万8千人、海軍約2千人の計3万人もの兵士が配備された。当時の宮古の人口は約6万人。疎開などで約1万人が島を離れた一方で、多くの兵士が来て、8万人に膨れ上がった。
- ・日本軍の配備や空襲の激化で、人々は十分な対策がされないままに、湿気が多い防空壕や洞窟陣地などで生活し、食糧不足や過度な労働、医療品不足も重なって、マラリアは急速に広がった。
- ・三つの飛行場に向けての1945年5月4日の英国艦隊による艦砲射撃は、3～40分の間に約1,171発もの砲弾が撃ち込まれ、「島全体が揺れている」だったという。

夕方には、日本共産党事務所を訪問し、パンフレット「陸自はなぜ来るの？」をいただき、上里樹さんのお話を伺いました。



離島奪還訓練のための合同作戦会議：2016年

◆海兵隊と自衛隊が、宮古島を舞台に“戦争ごっこ”!?

- ・基地の強化は、“継戦能力”を向上させるため。
核攻撃にも耐えうる構造の司令部は、地下30mに作られる要塞であり、天井厚5m、壁厚1mにもなる。

- ・本島の病院では、自衛隊員用のベッド数を拡充して、住民の受け入れ数が減っている。
- ・陸自が配備される理由は、宮古島を守るためでも、日本を守るためでもない。アメリカが中国との全面戦争を避けるために、局地戦争に持ち込もうとする構想による。
- ・負けるとわかっている戦争に突き進もうとしている今の日本は、あの大战の前と同じ…。

【6】6月27日（土）：宮古島

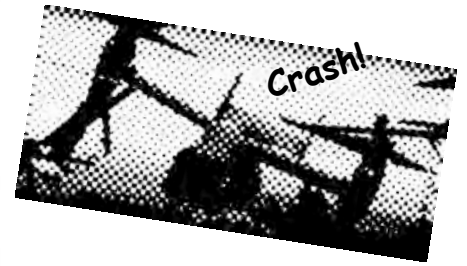
台風は通過しましたが、戻れる便は空席待ちしかなく、もう1日、宮古島で活動。

朝、タクシーに分乗して、オスプレイ飛来予定の場所へ。野原（ノバル）の航空自衛隊レーダー基地では、マスコミ公開の予定が急に変更になり、陸自駐屯地に移動します。しかし、結局、オスプレイは来ないことになりました。理由は、表向きは「悪天候のため」。自衛隊が県に対して、電話1本で一方向的に変更を通告してきたとのこと。抗議行動から逃げているのでしょうか。

陸自駐屯地（マスコミ公開されたのは、戦闘車輛による日米共同の「災害救護訓練」＝通称「レゾリュート・ドラゴン26」の様子だけ、オスプレイ容認の宮古市長も来ている）の正門前で、地元の方たちや他県からの参加者（計40人ほど）と、抗議行動を行いました。



翌日の宮古毎日新聞の記事



た。清水共同代表は「天候不良での中止のようだが、きょうは問題ないのでは。連日、日時の変更があり、私たちをかく乱させているのか」と語ってしまつた。また、使用申請が出ていたようだが、本日に来るのか、目的が分からないと語った。

◆「戦場」に送られる若い自衛隊員の命を守りたい

- ・「国民保護法」は、島民を守るためなのか？ 島から追い出すためなのか？

自然災害による“避難”とは全く別で、なんの支援も補償もない。「戦争」で避難しろと言われても、自分たちの島がどうなるか、自分の目で見届けたい。

（車輛が出入りする正門前には、地元の農園を営む老人が、隊員の排除を拒んで、ずっと座り続けていました。）

- ・“恫喝”問題は、刑事訴訟を起こしているが、自衛隊が市民の生活を脅かし、支配していることを、日本中で許してはならない。（上里清美さんとともに、“恫喝”を受けた清水早子さん）
- ・オスプレイは、“未亡人製造機”と言われる。米国は保持していない。それを、平和憲法を持つ日本が、なぜ配備するのか！？（茨城県平和委員会・篠原睦さん）
- ・国民の命も、自衛隊員の命も守りたい。

小泉進次郎が「防衛」したいのは、自分の権力だけ。

（中にいる隊員たちに向かって）自衛隊から逃げるのは、今ですよ !! 目を覚ましてください！

（佐賀から参加の若い女性）

- ・橋下徹が府知事になって、国旗・国歌の条例をつくり、卒業式での不起立が処分されるようになった。今、国会で通過されようとしている「国旗損壊罪」には、断固反対する。

市民の抵抗は“微力”だけど、“無力”ではない。（大阪から来た初老の男性）

- ・この駐屯地の中にあるのは、すべて「軍事」のための車輛であり、「救護」専用のものはない。行われているのは、すべて「戦争」のための訓練である。「自衛隊は人を殺す訓練をしている」という発言が批判されたが、それは真実を語っている。

私たちは、自衛隊員（「遺書」も書かされている）が離職するように、呼びかけている。（清水早子さん）

午後は、宮古島から橋（水道管を併設している）でつながれた、離島に向かいました。来間（クルマ）島では展望台から海を見ましたが、池間（イケマ）島では途中からの土砂降りの豪雨のために、タクシーを降りることができませんでした。

その後、国立療養所「宮古南静園」（ハンセン病・強制収容施設、歴史資料館）を見学し、その歴史・事実を学びました。

（資料の中の、高校生の詩「知ることの大切さ」の抜粋を、本報告の最後に記しました。）

【7】6月28日（日）：宮古島→（那覇、乗り継ぎ）茨城空港

梅雨明けが並年より遅く、この日も雨模様でした。

朝、上里清美さんが同乗するバスで出発し、カママ嶺公園の「9条の碑」と「台湾友好の像」を見学しました。「有事」が喧伝されるのに対して、地元の財界には「経済による友好関係」への模索が続けられているということです。

続いて、伊良部（イラブ）大橋（3540m）を渡って、島の「海の駅」の前で、上里さんの話を聞きました。ここが、“恫喝”事件の場所です。許可をめぐってウソをつき大声で威圧を続けた比嘉司令の振る舞いは、まさに「軍隊」の本質を表しています。私たちは、訴訟を支援するカンパをお渡ししました。島にも裁判所はあるけれど、島民の抗議を避けて、裁判は那覇で行われるそうです。

次に向かった「長山港」は、「尖閣」問題以降、海上保安庁の拠点港となり、艦船が増加しました。

「渡口（トグチ）の浜」は、2016年の日米合同「離島奪還」作戦会議で、米軍司令官が棒で指している場所です。この美しい海岸に、水陸両用の舟艇を上陸させる計画です。

帰りの飛行機は、宮古空港ではなく、伊良部島の下地空港から出発します。3000mの滑走路を持つ下地空港は、大型機のパイロット育成のために、「軍事利用をしない」約束（屋良朝苗・主席による覚書）で開港し、管理は沖縄県にあります。

JALが経営危機で路線撤退した後、運営に三菱地所が加わり、今後の軍事利用化が懸念されます。

島から出る時、台風で足止めされていた人々でゴッタ返す空港で、「有事」の島からの“避難”がいかに困難であるか、肌で感じました。

スカイマーク便は、那覇空港で乗り継ぎ、3日遅れの18時過ぎ、茨城空港に到着しました。

平均年齢75歳の20人が、たくさんの学びを得て、無事に帰ってきました。この7日間の貴重な経験を、多くの人たちに伝えていきたいと思います。

「知ることの大切さ」

（宮古南静園の資料より：抜粋）

「やっと人間になれる」年老いた男性が言った
今まで「人間」じゃなかった
人間として世の中が見てくれなかったのか
何があったんだろう？
僕は知りたい「ハンセン病」のことを
なぜ「やっと人間になれる」と言ったかを
僕は知る必要がある
それも正しく知らなければならない
無知による差別と偏見が
同じ人間をまるで虫けらのように扱い
言葉に尽くせぬむごさと悲しさを与えてしまった
取り返しのつかない過ちをおかしてしまった
同じことを繰り返さないために
僕は今、知ることの大切さを痛感する
私たちは知らなければならない
知ることによって正しい判断ができるのだ



（文責：後藤義昭）

● 憲法9条の会つくばの活動から

当会では毎月第3日曜日に定例署名、9日に9の日署名を行なっています。その他、「戦争をする国づくりNO@つくば」と共に、毎月3日と19日に、「市民スタンディング」を行います。

◆賛同人 2026年7月5日現在

総数991名（つくば市内695名）

◆大軍拡反対請願署名 327筆

憲法9条改悪に反対する請願署名（4/9より開始）

234筆 いずれも7月5日現在



● 署名行動

憲法9条改悪に反対する請願の街頭署名は、5/9は17筆、5/17は9筆、6/9は16筆、6/21が3筆でした。

「結」129号に署名用紙を同封しましたが、賛同人の皆様から計219筆の署名を頂きました。

6/23に、①大軍拡反対請願署名・327筆と②憲法9条改悪に反対する請願署名234筆を、「九条の会」事務局に送付しました。

● スタンディング行動

・9条壊すな 3の日スタンディング

6月3日は、風雨が強く中止に。7月3日（金）は、つくば駅A3出口付近で、11名の参加でした。6月に沖縄ツアーに参加された平和委員会の方は、「先島諸島に軍事基地はいらない」と訴えました。

・戦争法廃止 市民スタンディング

5月19日（火）、6月19日（金）

つくばセンター広場

大学生や、デモカレンダーを見て参加された方など、両日30名以上が集まりました。手作りのプラカードや絵本の読み聞かせなど、多彩な行動がとりくまれました。



● 6月18日（木）「アウシュヴィッツ平和博物館」（福島県白河市）訪問

つくば・牛久の8名が、自家用車2台に分乗して、訪問しました。

『アウシュヴィッツの子どもたち』（青木進々）の言葉より

アウシュヴィッツは、本当に終わったのだろうか。ヒトラーは死んだ、ナチス・ドイツも滅びた。でも、ドイツでもヒトラーを尊敬する人は今でもいる。彼らは「ネオ・ナチ」と呼ばれ、その数は増え続けている。なぜだろう・・・

いま、私たちの心の中に、「優秀な人間」と「だめな人間」を分けようとする考えがないだろうか？ みんなと同じことをできない人を「だめなやつ」だと決めつけてしまうことはないだろうか？ みんなと違う意見を言う人を「じゃまなやつだ」といって、仲間はずれにすることはないだろうか？ 強い者に嫌われたくなくて、いけないと分かっているのに、やってしまうことはないだろうか？

自分さえ得をすれば、「他の人なんかどうでもいい」と、思うことはないだろうか？ あの時のように・・・

● 母親大会 開催

・茨城県母親大会 6月7日（日）

稲敷市あずま生涯学習センター

松元ヒロさん・ソロライブ、リレートーク「茨城の農業を考える」

・つくば母親大会 7月11日（土） 市民ホールやたベドキュメンタリー『夢みる小学校・完結編』上映（午前・午後の2回）



◀ 行動予定 ▶

○8/3（月） 9条壊すな3の日スタンディング

13:00～13:30 つくば駅A3出口（市民アクション主催）

○8/6（木） 平和の鐘つき行動 7:50～ 栗原の北斗寺

○8/9（日） 平和の鐘つき行動 10:40～ 栗原の北斗寺

○8/9（日） 9の日署名行動

13:00～14:00 アルス会館前

○8/15（土）事務局会議&第4回21周年の集い実行委員会

10:00～12:00 竹園交流センター

○8/16（日） 定例署名行動

13:00～14:00 アルス会館前

○8/19（水） 市民スタンディング

12:00～13:00 センター広場（市民アクション主催）

『戦争は、ひとつの「狂気」からはじまる』

鈴木哲夫 著（ブックマン社／2025.12.3刊）



この本の帯には「新しい『戦前』が訪れる前に知っておくべき戦争と命の物語!」とある。「すべての取材の中で一貫して私が感じ続けたのが、人間の『狂気』だった。なぜ戦争に走ったのか。発端は、誰か。軍部や政府の決定は、たったひとりの『狂気』から暴走した科学なき決定ではなかったのか——」

記者・ジャーナリスト歴40年以上の著者が、これまで積み重ねた取材の集大成として、まとめた書である。印象的だった

章を抜粋して紹介したい。

第2次世界大戦末期の水上特攻艇

あの戦争には数多くの「狂気」がある。特筆すべき「狂気」として、潜水特攻「伏龍」隊に触れている。人間魚雷とも言われた。水中マスク、酸素ボンベ（潜水時間は数十分程度）、約15kgの弾薬を先頭につけた長さ3～5mの竹竿、体が浮かばないように鉛の重りを装着し海底に立つ。本土決戦の際、敵上陸部隊の船艇を水中から爆破するために考えられた戦略である。それはついに船でもない人間そのものだった。「伏龍」の解説図を一度見てほしい。浮かないようにと履かせたコンクリートの下駄を見てほしい。重りの下駄を履いて海に潜り、海底を歩き、竹槍の爆弾で下から突く、これを軍部は本気で考え若者に訓練をさせ、300余りの命を殺した。狂気はここにもあった。

原爆が落とされるはずだったもう一つの場合

それは福岡県北九州市小倉だった。著者は小学校6年から中学3年まで、北九州市の小倉南区で過ごしていた。中学1年生の時、担任の尾田征徳先生から戦争についての話を聞いた。

「6月の北九州の空爆で成果を上げた米軍は、その後もこの北九州を標的にしたんだ。でももっと覚えていてほしいことがある。君たちは知らないだろうけど、実はB29はその1年後に小倉の兵器工場にあの原子爆弾を落とすつもりだった。ところが 天候のせいとか色々なことがあって、米軍は小倉を諦めて最終的に長崎に原爆を落とした。要は長崎が小倉の身代わりになってくれた。そして長崎の方々がたくさん 亡くなった。だから長崎の原爆を人ごとと思っちゃいけない。8月9日に祈りを捧げなきゃならない。」教室は静まり返った。

保守政治家達の反戦思想

この著書の最後には、これまで著者がインタビューした政権を担ってきた大物政治家の言葉が綴られている。

・梶山清六：武力行使などの国際情勢に対し、政治として当然責任を持って対応する。しかし同時に、自らの体験から

二度と戦争はしないことも揺らいではいなかった。梶山はそれらを両立させねばだめなのだと言った。有事法制をやるならば 常にセットで「それを行使しないでいい外交」が絶対条件。それが本当の安全保障だ、政治だと述べた。

・古賀誠（元自民党 幹事長）：戦時中の1940年生まれ。著書に『憲法9条は世界遺産』（2019年かもがわ出版）がある。古賀は幼少期に父が戦死している。その後、苦労を重ねる母の姿を見続けた。「戦争未亡人を再び生み出さない。平和な国を作り上げる」古賀の政治家の原点だ。そして憲法9条については「再び 戦争を行わないと世界の国々へ平和を発信している。これこそ世界遺産だ。一切、改正してはダメ」と主張した。「憲法に自衛隊を書いて蟻の一穴でも開けたら一気に広がっていく。憲法審査会での改憲議論はやっていい。変えていくべきところは他にある。しかし私はきちんと分ける。9条は違う。9条の改正は許さない。議論しても平和主義と立憲主義は絶対を守るもの。憲法は権力の乱用を縛るものだ。」「9条堅持。理想論だと言う人もいるが、何が悪い。理想を実現するのが政治の役割だ」

かつては保守政治家であっても戦争に反対する思いは強くあった、と。著者の、今現在の政権との乖離に愕然とする思いが滲んでいる。（塩川）

◀インフォメーション▶

○平和の鐘つき行動

広島・長崎の原爆被害を忘れず、二度と核兵器が使われることがないように、今年も平和の鐘をつきます。

- ・8月6日（木） 7:50集合 栗原・北斗寺
- ・8月9日（日） 10:40集合 栗原・北斗寺

○土浦 平和のつどい

- ・8月15日（土） 14:00～

映画『ネタニヤフ調書～汚職と戦争』

イスラエルは、なぜ戦争を止められないのか
クラフトシビックホール土浦（元・土浦市民会館）
前売り券 1200円、当日券 1500円、高校生以下 800円

○「平和を考えるパネル展」

- ・8月29日（土）～31日（月） 洞峰公園・記念館
つくば市平和委員会・主催

沖縄の歴史と現在（先島諸島ツアーの報告も）

○平和のつどい in 牛久 2026 ～戦争のない明日を～

- ・9月5日・13日・27日 展示開催
（13・27日は、以下の催しも）

- ・9月13日（日） 14:00～ 布施祐仁さん講演会

「日本はどこに向かっているのか」

- ・9月27日（日） 14:00～ 映画『黒川の女たち』上映
牛久市中央生涯学習センター 参加無料

問い合わせ先：070-2678-1440（中村）